

地震から自身を守るために

— 巨大地震にどう備えるか —

日 時：令和元年10月19日（土） 10：00～11：30
場 所：愛知県阿久比町勤労福祉センター
主 催：阿久比町役場 総務部 交通防災課
イベント名：阿久比町・東浦町 防災リーダー及び災害ボランティアコーディネーター養成講座（第1回目）
参 加 者：70人
講 師：NPO 法人 愛知県防災士会 防災士

櫻井 衛（副理事長・兼 企画委員長）

ファシリテーター：阿部 健二（理事・事務局長兼広報委員長）

阿久比町勤労福祉センターで開催されました出前講座は、上記イベント名のとおり第1回目の養成講座の一翼を担う形で、櫻井講師より「防災の基本講話」を約90分説明しました。

開講に伴い私たちは、冒頭の開講式から参加させて頂き、開講挨拶に始まり、「防災ボランティアあぐい」に続き「東浦町の防災対策」につきまして、それぞれの代表の方からプロジェクターと席上配布資料に基づきご説明を頂き、両町が取組まれている防災への姿勢と活動内容は、何を基準にするでもなく、秀でていることを実感いたしました。このことは、知多半島という地理的なことから、津波や地震、土砂災害などの自然災害を被るであろうことの危険予知の表れにより、防災が当たり前のように、身につけている印象さえ受けました。

櫻井講師は、今月中旬に襲来した台風19号の被害に触れ、豪雨による河川の決壊・氾濫という思いも寄らない自然災害に、普段から関心を持つことが重要で、以前から行政が発行しているハザードマップ（防災マップ）を理解、活用することの重要性と、併せて、マップの更新にも努めて頂きたいとお願いをしました。



スタンバイする櫻井講師

また、武蔵小杉のタワーマンションの停電がなぜ起きたのか、原因と今後の対策に触れ、住んではいけない危険な場所がある、そのことは温故知新のよう

に昔の地図を見たり歴史を紐解いて、今、住んでいる地形などが、どんな状況にあったのかを知ることが大切と説き、そのことに関連し、今は、知多半島に愛知用水が流れているが、昔は、農業用水として溜池が点在していたことを改めて、調べてみることも良いと促して前段の話をまとめ、プロジェクターと席上配布資料により説明を進めていきました。



「防災基本講話」を真剣に聞き入る参加者の皆さん

最後に質疑応答の時間を設けたところ、「海溝型の地震のメカニズムは理解しているが、断層による地震のメカニズムを理解していないので、説明されたい」。また、「耐震基準の見直しが図られているが、耐震基準の現状と進化について、説明をお願いしたい」。最後の質問は、「避難所等で個人情報の共有が必要となるが、適切な方法を教えて頂きたい」と防災に対する参加者の熱い思いを感じる時間となり、櫻井講師からは、全てにお答えし、ご理解を頂きましたが、帰り支度をする講師へ駆け寄り、質問を投げかける参加者が見えるほど「防災の基本講話」は、盛り上がりを見せました。

【主な講話】

1. 南海トラフ巨大地震は予知可能と言っていたのに何故できないの！

臨時情報の発令及び対応などを説明。

政府や自治体の号令を待っていれば「安全」だという感覚は、大切な家族を守ることを難しくすることなどの説明をした。

2. 海溝型地震の前後に活断層地震が続発！

知多半島の生い立ちと逆断層と撓曲崖(活撓曲)の違いなどの説明及び近隣の活断層の危険度などを説明した。

3. 最近の地震で見えてきたもの!

熊本地震、大阪北部地震、北海道胆振東部地震の特徴を踏まえ、被害状況説明及び中部地方の電力供給状況、主な発電所が海岸近くの軟弱地盤上に立地しており、長期のブラックアウト被害も想定されることの説明をした。

4. 活断層地震から生き残るには!

住宅の耐震化と家具固定の必要性を説明。

昭和56年6月からの新耐震、その後、平成12年に建築基準法が改正され、一段と基準が強化されたこと、また、改正点を説明した。

5. 巨大地震から生き残るには!

大規模災害に備えたタイムライン(防災行動計画)の策定の必要性及び策定の流れを説明した。

6. 今、問われる“自助”の備え!

- ・ボランティアは来てくれるか

南海トラフ巨大地震は、被災範囲が広く、隣町もまた隣町も被災してボランティアは当分の間、期待できない。

- ・どれくらいの建物被害が出るの

東日本大震災より震源域が日本本土に近い。東日本大震災を超える広範囲の人口密集地が強く揺れ、広域で甚大な被害が発生する。

広域の災害地域に外から入ることは困難。

- ・体育館での避難生活がどれほど悲惨で過酷か

広域地震災害では、命を守るのは勿論のこと、悲惨な避難生活を考えると地震後も住み続けられるか否かが住宅にとって重要な性能になる。

7~10日分の家族の食糧と共に自宅で避難生活ができるよう、「自助の備え」が今問われている。

最後になりますが

本日のキーワード

防災 ⇨ 減災

- ・まず、自分が生き残ること。
- ・そして、地域の人と一緒に災害に立ち向かうこと。